

個別の指導計画作成例

作成日、最新の更新日を入力します。

【例】様式1(児童生徒に関する記録)

個別の指導計画

作成日	令和	年	月	日
更新日	令和	年	月	日

フリガナ		性別		国籍	ブラジル	在留資格	定住者
名前		生年月日		平成・令和	年(西暦	年)	月 日
住所		連絡先					
入国年月日	令和・平成	年(西暦	年)	月	日	学校受入年月日	令和・平成

家族構成					
	名 前	続柄	国 籍	本人との言語	日本語理解の状況・備考
		父	ブラジル	ポルトガル語	簡単な日本語での会話が可能
		母	ブラジル	ポルトガル語	日本語での会話は困難
		弟	ブラジル	ポルトガル語	日本語での会話は困難

家庭への連絡 (該当するものを ○で囲みます)	1 日常的な連絡について、日本語で理解できますか。 2 懇談会等の説明について、日本語で理解できますか。 3 「2」が困難な場合、通訳を帯同することができますか。	(可能・困難) (可能・困難) (可能・困難)	適宜、更新 します。
-------------------------------	---	-------------------------------	---------------

学年	年齢	就学等の状況・期間	特記事項 (学校外での支援状況等)
	0	出身地 ブラジル	
	1	ブラジル	
	2	ブラジル	
	3	ブラジル	
	4	ブラジル	
	5	ブラジル	
	6	2月に来日 ○○市立○○こども園に入所	
小1	7	○○市立○○小学校に入学 特別の教育課程による指導	地域の日本語教室「○○」週1回
小2	8	○○市立○○小学校 特別の教育課程による指導	地域の日本語教室「○○」週1回
小3	9	9月ブラジルに帰国のため退学 (ブラジル△△小学校へ)	地域の日本語教室「○○」週1回
小4	10	3月に来日 (ブラジル△△小学校より)	
小5	11	○○市立●●小学校に編入 特別の教育課程による指導	地域の日本語教室「○○」週1回
小6	12	○○市立●●小学校卒業	地域の日本語教室「○○」週2回
中1	13	○○市立□□中学校入学	地域の日本語教室「○○」週2回
中2	14	○○市立□□中学校 ブラジルに一時帰国(9月～12月)	地域の日本語教室「○○」週2回
中3	15	○○市立□□中学校卒業	地域の日本語教室「○○」週2回
中学校卒業後の進路志望 ・全日制高校に進学し、卒業後、日本での就職を希望。 (2019.4より現在まで)		その他 (発達障害等の診断の有無、宗教上の配慮事項等) ・○○教のため、○○を食べることができない。 ・○○病院発達支援センターを受診し、「ADHD」という診断を受けた。(R2.8)	

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
年度	平成27	平成28	平成29	平成30	2019	令和2	令和3	令和4	令和5
在籍校	○○小	○○小	○○小	—	●●小	●●小	□□中	□□中	□□中
取り出し指導 (週 時間)	8時間	4時間	4時間	—	2時間	—	—	—	—
入り込み指導 (週 時間)	—	—	—	—	2時間	2時間	2時間	2時間	2時間

個別の指導計画作成例

個別の指導計画作成例		個別の指導計画		●作成日、最新の更新日を入力します。									
【例】様式2①(指導に関する記録:「特別な教育課程」を編成する場合)													
作成日		令和 年 月 日		更新日									
令和 年 月 日		令和 年 月 日											
年組	年 組	作成者	国籍	母語等 (使える言語)	週 時間								
フリガナ													
児童生徒名		指導場所	取り出し 指導時数										
指導者 支援者													
年度当初評価													
発達 ステージ	評価段階	各段階の特徴		評価段階	各段階の特徴								
	B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、おおまかに理解・表現。		B	身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、おおまかに理解・表現。								
	一番高い 言語・技能	母語	話す・聞く	一番高い 言語・技能	母語	話す・聞く							
	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。	2	ごく限られた語、文字の習得の開始。							
習得 ステップ	日本語の力	聞く・話す	2	この力	3	この力							
	読む	1	この力	3	この力	3							
	書く	1	この力	2	この力	2							
「特別な教育課程」による日本語指導													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
日本語学習内容	①サバイバル日本語												
	②日本語基礎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③技能別日本語				●	●	●	●	●	●	●	●	●
	④日本語と教科の統合学習												
	⑤教科の補習				●	●							
指導計画 (日本語学習内容の内容別に、①～⑤を文頭に付けて記入することが望まれます)		前期(年度当初評価)					後期(中間評価を基に)						
		②絵や図、写真等を手がかりに、分かち書きで書かれた短文を音読できるようにする。 ②長、拗、撥、促音を歌で覚え、単語をひらがなとカタカナで書けるようにする。 ④教科書本文をやさしい日本語に書き直したリライト教材を使い、内容を理解できるようにする。					②絵や図、写真等を手がかりに、カタカナや低学年で習う漢字が混じった文章を読み、大まかな内容を話したり書いたりできるようにする。 ②単語カードと定型文カードを使って、絵で意味を確認しながら発話練習を繰り返し、思いや考えを言えるようにする。 ④教科学習に必要な単語について、やさしい日本語への言い換えによって理解できるようにしながら、教科学習が定着するようにする。						
評価 (指導内容) (指導方法) (学習状況)等 (日本語学習内容の内容別に、①～⑤を文頭に付けて記入することが望まれます)		前期(中間評価)					後期(年度末評価)						
		②教師や友達がゆっくりと分かりやすく話すことで、内容を聞き取り、簡単な単語をひらがなで概ね書けるようになった。 ④教科書のリライト教材を繰り返し声に出して読むことを通して、内容について分からないことを質問できるようになった。					①どのような指導の結果、どのような習得結果となったかを記入します。次年度の指導の参考となる内容を記入します。 ②前期後期の2回に分けて記載する形式です。 ③3学期制で記載する場合は、形式を変更して入力することができます。						
上記以外の指導・課題等		・社会科の学習は、入り込み指導を行う。(週2時間) ・毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加している。											

個別の指導計画作成例

個別の指導計画作成例										個別の指導計画										●作成日、最新の更新日を入力します。									
【例】様式2②(指導に関する記録:「特別な教育課程」を編成しない場合)										作成日										令和 年 月 日									
										更新日										令和 年 月 日									
年組		年 組								国籍																			
フリガナ																													
児童生徒名										母語等 (使える言語)																			
学年	年度当初評価			中間評価			入り込み指導の 回数(週)	前期(中間評価)				後期(年度末評価)				年度末評価													
	発達ステージ		習得ステップ	発達ステージ		習得ステップ		評価(指導内容・指導方法・学習状況)等								ステージ		ステップ											
	読む	書く	読む	書く	読む	書く										読む	書く												
小1	B			B			2	・支援者に続いて1文字ずつ読むことを繰り返すことで、ひらがなを読むことができるようになった。				・対話による支援を得て、単語で区切りながら、短い文をゆっくりと読むことができるようになった。また、生活に関わる出来事を、2、3の単文で書けるようになった。				B													
	3	2	1	3	2	2	時間									3 3 2													
小2							時間																						
小3							時間																						
小4							時間																						
小5							時間																						
小6							時間																						
中1							時間																						
中2							時間																						
中3							時間																						

①「ことばの力のものさし」の「包括的なことばの発達ステージ」と「日本語指導の習得ステップ」を基に評価します。

②入り込み指導者は、本様式を用いて、在籍学級での学習状況等を蓄積することが大切です。

③転学先、進学先への引継ぎを含め、次年度の指導に活用することが望まれます。

文化的言語的に多様な背景をもつ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」									
「包括的なことばの発達のステージ」の各段階の特徴									
A 身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、断片的に理解・表現									
B 身近なこと・経験したこと、幼児・低学年前半の内容。対話による支援を得て、おおまかに理解・表現									
C 身近なこと・経験したこと、低学年の内容。順序に沿った理解・表現、出来事作文									
D 中学年の教科学習内容、基本的概念。因果関係の理解・説明、テーマ作文									
E 高学年から中学の教科学習内容、抽象的概念。主題・要点の解説、一貫性のある説明、ジャンル別作文									
F 中学から高校の教科学習内容、抽象的概念、表社会の話題。多角的・批判的視点からの議論・意見、分析・評価、推敲									
「日本語の習得ステップ」の各段階の特徴									
1 ごく限られた語、文字の習得の開始									
2 ごく限られた語、文字の習得の開始									
3 身近な語彙・表現、単文									
4 日常的な語彙・表現(制限あり)、単文から基礎的な重文・複文									
5 日常的な語彙・表現(幅広い)、低学年レベルの談話・文章(自由な単文・重文・複文の生成)									
6 中学年レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章									
7 高学年から中学レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章									
8 中学から高校レベルの教科学習に必要な語彙・表現、談話・文章									